

編集室紀行

映画で歴史にふれ 未来の医療に向かう

長野県佐久市(旧南佐久郡)にある佐久総合病院。地域医療の礎を築き、住民のニーズに実直に応え続けてきたその活動は、医療・福祉の垣根を越えた地域づくりとしても注目を集めています。そしてこの度、戦後30年以上にわたり佐久病院映画部によって記録された、30万フィートに及ぶフィルムをもとに製作された映画『医す者として——映像と証言で綴る農村医療の戦後史』が、劇場公開されることになりました。

早くから、「二足のわらじ」(高度専門医療と地域密着医療)を履くこ

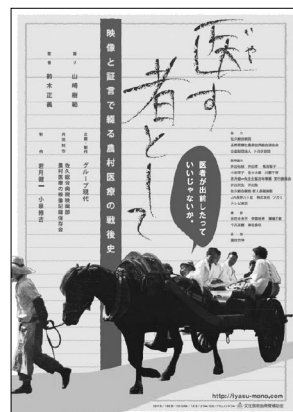


との重要性を説き、「出張診療」や「全村健康管理」など、住民と一体となった医療実践に取り組んだ若月俊一氏(元佐久総合病院院長)。その半生とともに描かれる佐久病院の物語は、「農村医療」「農村医学」の歴史を振り返る貴重な記録であるだけでなく、現代医療が抱えるさまざまな問題を捉えなおし、より良い医療実践を考えるためのヒントに満ちています。

「日本全国それぞれの地域で医療や福祉の活動を続けている方々にこの映画を観てもらいたい」。こう語る鈴木正義監督の想いは、これから医療・福祉に携わる者、そしてその教育に携わる者にも向けられていることでしょう。

若月氏を知らない学生も増えてきているかもしれません。この機会に主著『村で病気をたたかう』(岩波新書)と併せてこの映画を紹介されてみてはいかがでしょうか。教員と学生あるいは学生同士、「医療のこれから」について語り合うきっかけになればと願います。

(弊誌編集室)



(写真提供：グループ現代)

『医す者として——映像と証言で綴る農村医療の戦後史』

◆劇場：ポレポレ東中野

◆公開スケジュール

2011年12月17日～2012年1月中旬頃
10:20 / 18:40(1日2回上映)

◆料金

特別鑑賞券：1300円(劇場窓口、チケットぴあにて発売中)

当日券：一般1700円／大・専1400円
／高・中・シニア1000円

※上映期間中、関係者(プロデューサー・監督など)による舞台あいさつを予定。
上記公開後は、全国各地で順次劇場公開および自主上映の貸し出しも予定。